①—心豊かな市民生活

7 スポーツ・レクリエーション

■高まる市民ニーズ

横浜市民のスポーツ、レクリエーションへの要求はどうであろうか。週休二日制の普及、生活様式の変化は、余暇時間の増加をもたらしている。五七年に実施した中区区民意識調査によると、余暇時間がふえた場合に、〝旅行・ハイキング〟〝スポーツや体力づくり〟をしたいと答えた人が、おのおの四割強と上位を占め、スポーツ・レクリエーションへの市民ニーズが、今後も高まることをうかがわせる。

横浜市のスポーツ人口を正確につかむのは困難だが、横浜市体育協会によると、現在種目別のスポーツ協会は四〇協会登録されている。これら体育協会とは別に、小・中学校の開放により、グランド、体育館などの利用のため登録しているスポーツ団体は、五六年度調べで約五〇〇〇団体、三七万人にのぼっている。これら以外に登録しないで活動している市民を含めれば、スポーツ人口はかなりのものと推測される。

こうした市民ニーズに対して、横浜市の施設整備は必ずしも十分とはいえないが、近年、積極的な対応を進めている。

■地域でのスポーツ活動の充実

市民のスポーツニーズにこたえるためには、日常生活のなかで気軽に利用できる施設が必要である。そのため、地区センターに原則として地区スポーツセンターを併設している。これは、現在までに一一館建設されており、建設中の鶴ケ峰の地区センターにも併設される。五六年度の利用状況をみると、地区センター利用者の四人に一人が地区スポーツセンターを活用しており、年間延利用者は約四三万七〇〇〇人、一館一日当りの利用者数は二〇八人と、活発な利用がされている。スポーツ活動の充実を望む声にこたえて、区でのスポーツ活動の拠点となるよう、地区スポーツセンターより規模の大きな区スポーツセンターの建設を行っている。五五年一〇月の港南区の第一館目に次いで、旭、戸塚、港北区に建設を進め、将来一区一館建設を目標としている。また、広域的施設として、さまざまなイベントのできる大規模多目的な施設の建設を予定しており、各種競技大会の開催などのスポーツ活動の活発化を図ってい

表－1　学校開放の利用種目（目的）別年間利用回数（56年度）

利用種目（目的）	年間利用回数	利用種目（目的）	年間利用回数
ママさんバレー	15,776	体操	1,384
ソフトボール	12,530	運動会・健民祭	1,313
少年野球	11,286	野球	964
バドミントン	7,937	空手道	931
バレーボール	7,261	ゲートボール	781
剣道	6,413	軽スポーツ	624
卓球	6,315	ダンス・フォークダンス	591
ミニバスケット	5,576	テニス	522
サッカー	4,320	各種行事	522
バスケットボール	2,607	その他の室内競技	392

〔資料〕教育委員会

く。このほか学校施設の開放を積極的に進めており、地域でのスポーツ活動の発展に大きく寄与している（表―1）。年々利用の拡大が図られ、五六年度には、開放校が四〇三校、年間延利用者が三五六万七五一六人とふえ、実に市民一人当り年一・三回利用していることになる。

■ふるさと村など整備

レクリエーションに対する要求は多岐にわたっている。青少年のレクリエーションとして、赤城と南伊豆に少年自然の家を建設した。道志村に加えて三ツ沢公園、緑区鉄町に野外活動センターを建設し、自然環境のなかでの青少年の野外活動、スポーツ活動の普及に努めている。また、運動公園をはじめ公園の整備を進めている。五七年三月に、金沢自然公園動物区は北アメリカ区の一部を開園させたほか、野毛山動物園を上回る規模の総合動物園の建設を予定しており、市民の新しい憩いの場となることであろう。農業を市民とふれあいのあるもの、市民のレクリエーションと結びついたものとするため、田園風景の残る緑区寺家地区をユニークな〝横浜ふるさと村〟として整備していく。さらに、豊かな自然のなかで、家族、グループで余暇を楽しく過ごす市民休暇村を市外に設置する。

そのほか新しいレクリエーション施設として、海を生かしたものが生まれている。本牧海づり施設は、五三年のオープン以来、利用者も年々増加し、日曜・祝日には平均一〇〇〇人以上の釣り人でにぎわっている。新たに磯子区にも釣り場を開設する予定。金沢地先埋立事業の一環として進行中の海の公園は五五年七月に人工砂浜がオープンしたが、さらにこの地先に二四haの人工島も造成中である。

第２回「横浜マラソン」には3000人が参加した

■「横浜マラソン」など開催

最近のジョギングブームを背景に、五六年一一月に第一回横浜マラソン大会が約二〇〇〇人もの参加をえて開催された。五七年の第二回大会も約三〇〇〇人が参加し、横浜の新しいスポーツ行事が誕生した。スポーツは若者ばかりとは限らない。老人のコミュニケーションを兼ねたスポーツ、ゲートボールは、一万人を超える人がプレーに興じている。市、区で大会を開催するなど、ここ数年急速な普及ぶりである。

今後、スポーツ・レクリエーション活動の活発化に伴い、各種施設が建設されるが、これら施設の効率的、適正な管理運営方法が検討されるべきである。また、スポーツ・レクリエーション活動の振興、指導者の育成のための組織づくりなども課題である。これらの解決には、今後、市民と行政のスポーツを通しての一層の協力体制が必要である。